

野鳥観察

もうすぐ夏鳥がやってくる

(March 15, 2009)

暦のうえでは春ですが、まだ寒さが残っている今日この頃です。しかし、ウグイスが「ホー、ホケキョ」と囀り（さえざり）、春を感じさせてくれます。

野鳥の世界では3月～4月は渡りの時期で、冬鳥の多くが繁殖地を目指して渡りを開始し、夏鳥が日本で繁殖するために渡ってきます。

姫路科学館周辺にも多くの夏鳥が見られるので紹介します。

まず、最初に見られるのがツバメ（写真1）です。ツバメは人家周辺で繁殖するため、



写真1 ツバメ

人の目につきやすい野鳥ですが、姫路市周辺では3月中旬には観察することができます。姫路市内ではツバメ・イワツバメ・コシアカツバメの3種類が繁殖していますが、イワツバメはコンクリートの橋の下で繁殖し、コシアカツバメは校舎やマンションなどで繁殖しています。これらのツバメの仲間は同じ餌を食べているために、繁殖場所を変えることによって互いに棲み分けをしているようです。しかし、ツバメの繁殖場所が人家であるため、最近では糞を落とすので嫌がられている面もあるようです。イワツバメは繁殖地を拡大している野鳥で、夢前川では1990年7月に姫路市夢前町山之内にある「やまのうちばし」で初めて営巣が確認されました。その後、夢前川を南下して、2007年6月には姫路市広畑区東新町にある「歌野橋」で繁殖を確認しました。「やまのうちばし」で繁殖してから、18年間もの時間をかけて海岸近くまで繁殖地を広げてきたこととなります。

人の目につきやすい野鳥ですが、姫路市周辺では3月中旬には観察することができます。姫路市内ではツバメ・イワツバメ・コシアカツバメの3種類が繁殖していますが、イワツバメはコンクリートの橋の下で繁殖し、コシアカツバメは校舎やマンションなどで繁殖しています。これらのツバメの仲間は同じ餌を食べているために、繁殖場所を変えることによって互いに棲み分けをしているようです。しかし、ツバメの繁殖場所が人家であるため、最近では糞を落とすので嫌がられている面もある



写真2 サシバ

サシバ（写真2）は3月末から4月上旬にかけて渡来します。少し前まではサシバはワシタカの仲間ではトビに次いで多く観察できましたが、営巣木として利用していた松の多くが枯れてしまったために、最近ではあまり見られなくなっていました。

春の渡りは大きな群れを観察することはありませんが、10月初旬の渡りでは1日に数百羽が渡っていくのが観察されています。

タカ類は上昇気流をうまく利用して飛翔しています。タカ類の渡りを観察していると、ある場所にくると旋回・上昇を繰り返して高

く舞い上がっていきます。このような場所は上昇気流が発生しており、タカ類の多くは上昇気流をうまく利用することによって、体力を消耗することなく長距離を渡っていきます。

旋回・上昇しているタカ類の群れは1本の柱のようにつながって見えるので、「タカ柱」と呼ばれています。西播磨地方では1988年10月7日にたつの市御津町で323羽のサシバが渡っていくのが観察されましたが、県内では和歌山～淡路島～四国がサシバの主な渡りコースになっています。このように、西播磨地方では多くて300羽くらいのサシバしか観察できませんが、愛知県伊良湖岬や愛媛県高茂岬では1日に数千羽のサシバの渡りを見ることができます。

キビタキ(写真3)は4月中旬頃に繁殖地に渡ってきますが、3～40年ほど前までは、氷ノ山の坂の谷林道など1000m以上のごく限られた場所でしか見られませんでした。



写真3 キビタキ

しかし、今では繁殖地を広げて標高の低い山でも、ごく普通に観察することができるようになりました。一方、人間社会と積極的に共生しようとしている鳥がいます。例えば、ヒヨドリやキジバト・シジュウカラ・コゲラなどは積極的に人間社会に進出しています。これは、人間社会に進出することによってタカなどから襲われるのを回避しているのだと言われています。写真のキビタキは昨年、4月中旬に姫路科学館の裏山で撮影したものです。

野鳥好きの人は青色の鳥が大変好きなようです。例えばカワセミやオオルリ・ルリビタキなどは瑠璃(るり)色をした非常に美しい鳥です。そのなかでも、オオルリ(写真4)は里山の代表する鳥といってもいいでしょう。



写真4 オオルリ

オオルリは木の梢(こずえ)や枝先で囀っていることが多く、比較的、簡単に見ることができます。オオルリは4月中旬に渡ってきますが、溪谷に沿った林に生息しており、林道に隣接した岩場などにコケ類を巣材として巣作りをしています。渡りの途中では、市街地の公園や河川の樹木などにとまり、近くを飛ぶ昆虫を捕えているのが観察されます。

オオルリ、ウグイス、コマドリの3種類の野鳥は日本3名鳥と呼ばれています。この3種類の野鳥はいずれも美しい声で囀り、人々を楽しませてきました。オオルリとコマドリは夏鳥ですが、コマドリは主に東日本で繁殖するために4月中旬から下旬にかけて西播磨地方を渡っていきますので、この時期に美しい囀りを聞くことができます。

三谷康則(姫路科学館)

〒671-2222 姫路市青山 1470 番地 15 姫路科学館発行 TEL 079-267-3962)